

ユビキタスネット社会における新たな
地域ICTサービスの実現に関する調査事業
官民連携による
新たな観光情報等提供サービス

2007年3月20日

株式会社NTTデータ

本調査の概要



本調査の効率的な実施のため、調査フェーズを4つに分けて、新観光ICTサービスモデルの仮説検証からサービスモデルの具体化を検討した。さらに業務検討WGで現状の課題への解決策を、モデル検討委員会で技術的な課題及び解決策をそれぞれ検討した



松本市における観光情報提供サービス(現状)

松本市における現状のICTを用いた観光情報提供サービスのうち、「新まつもと物語」においては、市と市民ボランティアとの官民連携による運営が実現されている

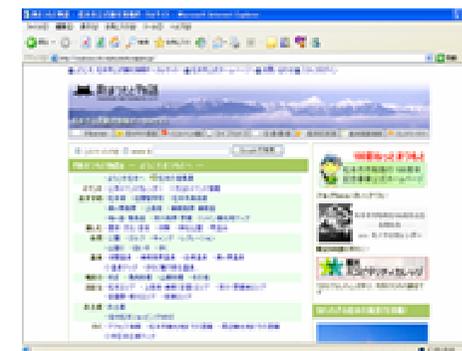
サービス名

内容

画面イメージ

新まつもと物語
(観光戦略本部)

松本市観光情報ポータルサイト「新まつもと物語」は、サービス企画・開発、コンテンツ作成・管理、システム開発・管理の全てを50名程度の市民ボランティア(観光戦略本部も一部参画)が担当している。実現の背景としては、松本市の観光戦略の基本コンセプトが「元気がなければ観光客は来てくれない」であることから、市民や観光に携わる人が元気に楽しんで参加できる観光情報提供サービスを目指したというものがある



くるくるねっと
まつもと
(広報国際課)

松本市の公式HPである「くるくるねっとまつもと」では、松本市の各部門が観光情報をアップロードし、広報国際課による表現の妥当性などのチェックを経て外部に公開される仕組みをCMS(コンテンツマネジメントシステム)により実現している



その他

松本商工会議所及び市内の事業者、市民が各々ホームページを用いて、観光情報を提供している

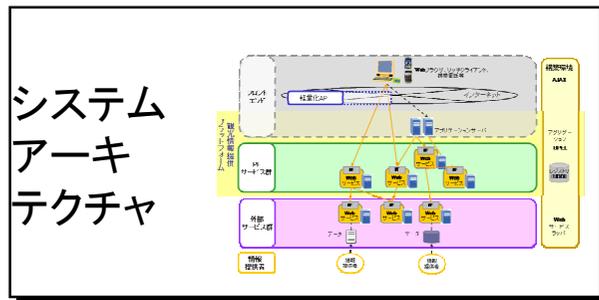


標準サービスモデルの定義

新観光ICTサービスモデルを他の自治体に展開するための、標準サービスモデルを定義するために、システムアーキテクチャ、それに対するサービス運営体制モデル、さらにコスト負担モデルについての検討を行った

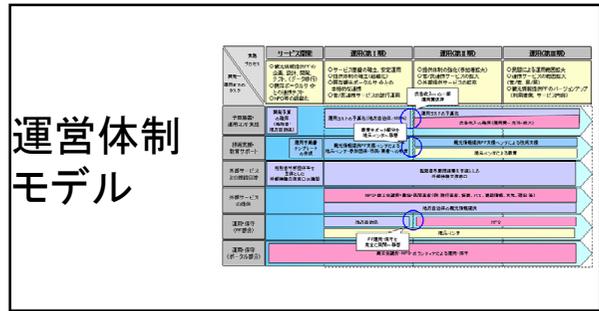
標準サービスモデル構成要素

内容



複数のレイヤ(フロントエンド、PFサービス群、外部サービス群)に分類され、共通的に利用するサービス群である基盤部分が「観光情報提供プラットフォーム」となる。さらに3つの特徴がある

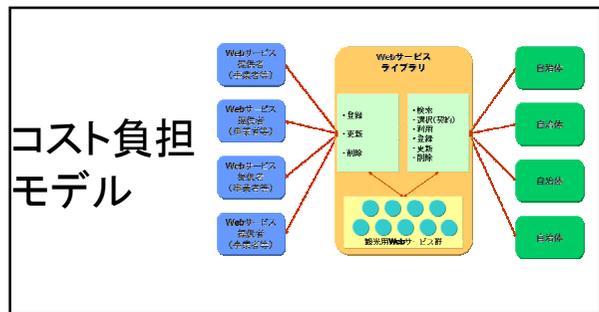
- ・サービスをつないで機能を実現
- ・接続するサービス同士でキーとなる情報を共有
- ・Webサービス化されていないものはWebサービスラッピング



「官による運営」と「民による運営」にわけられる。

官による運営は、官側が運営の責任主体となる上で、一部作業を民間側に委託するモデル

民による運営は、運営の責任主体は運用初期段階で官側となるものの、最終的に民側が主体となり運営されるモデル



コスト負担組織については、官を主体とした運営の場合、①もしくは②がコスト負担組織となり、民を主体とした運営の場合、②もしくは③がコスト負担組織となる。

- ① 政府または関連団体(既存・新規)
- ② 自治体
- ③ 民間団体(官側の予算に依存しないケース)